

事務事業マネージメントシート

作成日 平成28年 04月 19日

事務事業名	大内地区女性学級事業				担当	教育委員会 生涯学習課 大内分館					
政策名	B	学びと歴史・文化が豊かな心を育むまちづくり			電話番号	0285-82-2704					
施策名	01	生涯学習の推進			<input type="checkbox"/> 実施計画上の主要事業						
基本事業名					事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ					
法令根拠	社会教育法第5条（市町村の教育委員会の事務）					<input type="checkbox"/> 単年度繰返（開始年度 昭和40年度～）					
予算科目	1.一般会計	10.教育費	4教育費	1社会教育総務費		<input type="checkbox"/> 期間限定複数年度（ 年度～ 年度）					
事業概要	地域女性の学習と教養を深め、仲間づくりと生きがいづくりを進めるために開設した。内容は教養を高める学習、料理実技、手芸、健康づくり、視察研修等である。大内地区の女性を対象として、年に10回程度実施する。定員は50名。										

1. 現状把握の部 (1) 事務事業の目的と指標

①手段（主な活動） 27年度実績 年度当初広報により受講生を募集し、参加者の要望等により年間計画を立て、進める。各事業ごとに打合せ会を開き、準備等を行う。講師依頼通知、講師謝金支払い事務、事業実施通知の発送、取りまとめ。	⑤活動指標（事務事業の活動量を表す指標）の推移						
	名称	単位	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(見込)
ア：開催回数	回	9	9	10	9	10	
イ：募集人員	人	50	50	50	50	50	
ウ：参加申込数	人	36	32	35	41	40	
エ：							
オ：							
②対象（誰、何を対象にしているのか）＊人や自然资源等 大内地区の成人女性	⑥対象指標（対象の大きさを表す指標）の推移						
	名称	単位	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(見込)
ア：大内地区成人女性の数	人	3,003	2,978	2,942	2,870	2,829	
イ：							
ウ：							
エ：							
オ：							
③意図（この事業によって、対象をどう変えるのか） 女性の生きがいづくりと教養文化の向上を図る。	⑦成果指標（対象における意図された対象の程度）の推移						
	名称	単位	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(見込)
ア：学級生人数／募集人数	%	72.0	64.0	70.0	82	80	
イ：							
ウ：							
エ：							
オ：							
④結果（どんな結果（上位施策）に結びつけるのか） 学級に参加することによって、仲間づくりと生きがいづくりを進める。	⑧上位成果指標（結果の達成度を表す指標）の推移						
	名称	単位	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(見込)
ア：学習テーマを持って日連学級に取組んでいる市民の割合	%	25.6	27.0	25.2			
イ：							
ウ：							
エ：							
オ：							
(2) 総事業費の推移		単位	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(見込)
投 入 量	事業費 財源内訳	国庫支出金	千円	0	0	0	0
		県支出金	千円	0	0	0	0
		地方債	千円	0	0	0	0
		その他	千円	0	0	0	0
		一般財源	千円	3	10	10	87
	事業費計（A）		千円	3	10	10	87
人件費	正規職員従事人數	人	2	2	2	2	
	延べ業務時間	時間	100	100	110	120	
人件費計（B）		千円	420	406	464	503	
トータルコスト(A)+(B)		千円	423	416	474	590	
(3) 事務事業の環境変化・市民意見等							
①この事務事業を開始したきっかけは何か？いつごろどんな経緯で開始されたのか？		女性の知識・教養向上と社会参加、併せて仲間づくりと生きがいづくりの推進を図るため、昭和40年度から実施された。					
②事務事業を取り巻く状況（対象者や根拠法令等）はどう変化しているか、開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか？		特に、知識・教養を高めるためのニーズが多種・多様化している。					
③この事務事業に対して関係者（住民、議会、事業対象者、利害関係者等）からどんな意見や要望が寄せられているか？		新たなものにチャレンジしたい。（受講生）					

2. 1次評価の部 *原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的妥当性評価	①政策体系との整合性 ・この事務事業の目的は、市の政策体系に結びつくか? ・意図することが結果（上位施策）に結びついているか?	<input type="checkbox"/> 結びついている <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 生涯学習の推進に結びつく。
	②公共関与の妥当性 ・なぜこの事務事業を市が行わなければならないのか? ・税金を投入して達成する目的か?	<input type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 生涯学習の場の提供は市の責務である。
	③対象と意図の妥当性 ・対象を限定・追加すべきか? ・意図を限定・拡充すべきか?	<input type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 対象を見直す必要がある <input type="checkbox"/> 意図を見直す必要がある 大内地区の成人女性が対象である。
有効性評価	④成果の向上余地 ・成果を向上させる余地はあるか? ・成果の現状水準とあるべき水準の差異はないか? ・何が原因で成果向上が期待できないのか?	<input type="checkbox"/> 向上余地はない <input type="checkbox"/> 向上余地がある 学級生が年間計画をたて、活動して成果をあげている。
	⑤廃止・休止の成果への影響 ・事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は?	<input type="checkbox"/> 影響がある <input type="checkbox"/> 影響がない 生きがいづくりと仲間づくりの低下を招き、市民の連帯意識の向上が困難になる。
	⑥類似事業との統合や連携の可能性 ・他に、類似の形態の事務事業はないか?	<input type="checkbox"/> 類似事業がある（類似の事務事業名を記載） <input type="checkbox"/> 類似事業はない
	・類似事業がある場合、その事業と統合したり連携を図ることができるか?	<input type="checkbox"/> 他の事業と統合・連携ができる <input type="checkbox"/> 他の事業と統合・連携できない
効率性評価	⑦事業費の削減余地 ・成果を下げずに事業費を削減できないか? (仕様や工法の適正化、住民の協力など)	<input type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある 謝金と事務費だけなので削減の余地はない。
	⑧人件費（延べ業務時間）の削減余地 ・やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか? ・成果を下げずにより正社員以外の職員や委託でできないか (アウトソーシングなど)	<input type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある 学級開催のための講師打ち合わせ等、必要最小限の人件費である。
公平性評価	⑨受益機会・費用負担の適正化余地 ・事業の内容が一部の受益者に偏って不公平ではないか? ・受益者負担が公正・公平になっているか?	<input type="checkbox"/> 公正・公平である <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 講師謝金は市の負担だが、教材費等は自己負担で実施している。

3. 改革・改善方向の部

(1) 改革の方向性（改革案・実行計画） <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 見直し (<input type="checkbox"/> :目的妥当性 <input type="checkbox"/> :有効性 <input type="checkbox"/> :効率性 <input type="checkbox"/> :公平性) <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 継続	(3) 改革・改善による期待成果 <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th colspan="2"></th> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
		コスト																						
		削減	維持	増加																				
成果	向上																							
	維持																							
	低下																							
(2) 改革、改善を実現する上で克服すべき課題は何か？それをどう克服していくか？																								

4. 事務事業の2次評価結果（事業の総括と事業の方向性）

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合 <input type="checkbox"/> 記述説明不足（説明責任不充分） <input type="checkbox"/> 評価内容が客観性を欠く <input type="checkbox"/> 評価内容は客観的と言える	(5) 改革・改善による期待成果 <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th colspan="2"></th> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
		コスト																						
		削減	維持	増加																				
成果	向上																							
	維持																							
	低下																							
(2) 2次評価者としての評価結果 ①目的妥当性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ②有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ③効率性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ④公平性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり																								
(3) 2次評価者として判断した今後の事業の方向性 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的絞込み <input type="checkbox"/> 目的拡充 <input type="checkbox"/> 事業統廃合 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善 <input type="checkbox"/> 予算削減 <input type="checkbox"/> 予算増大 <input type="checkbox"/> 現状維持（従来通りで特に改革改善をしない）																								
(4) その他2次評価会議で指摘された事項																								